

マクロヘッジ・プロジェクトへの参加



ASBJ 専門研究員 やました ゆうじ
山下 裕司

2011年12月より、国際会計基準審議会（IASB）のマクロヘッジ会計プロジェクトに、Visiting Fellow という立場で参加しております。私の場合は、IASB 常駐ではなく、基本的には企業会計基準委員会（ASBJ）のスタッフ（金融商品専門委員会に所属）として我が国会計基準の開発に従事しつつ、IASB のプロジェクトにも参加するという形態です。具体的な仕事は、一部スタッフ・ペーパーの作成のほか、理事会が開催される際にはロンドンに出張し、IASB 内部での打ち合わせも含めて、検討作業や議論に貢献することです。

IASB プロジェクトに参加してからまだ日が浅いですが、難しさを感じるのは、まず第一にスケジュール管理です。ASBJ と IASB は同じ会計基準設定主体であり、取り組んでいるトピックには共通項が多々あるとはいえ、やはり別組織です。両方の組織に対して立派な貢献を果たしていくのは並大抵のことではないと、気を引き締めているところです。

この一方で、ASBJ と IASB の両方のプロジェクトに参加することには、シナジー効果もあります。電子メールやインターネットなどの情報伝達手段が急速に発達した今日においても、ロンドンと東京の間には情報ギャップが厳然として存在します。時差が9時間もあるため、IASB スタッフによる電話会議等を通じた我が国関係者へのアウトリーチ活動も、万全とは言い切れません。逆に、私から、我が国会計基準上の扱いや関係者の見方を率直に伝えると、非常に重要な情報として尊重されます。IASB スタッフと話していると、彼らは、真摯に、日本の声を聞きたいと願っていると痛感します。ただ、距離や時差、言語の壁を踏まえると、密度の濃い相互理解のためには、双方による一層の取り組みが必要です。私が、そうした役割の一端を担えればと、思いを新たにしている次第です。

シナジー効果という点では、これまでの職務の中で経験させていただいたことを、会計基準開発というかたちで社会に還元することも、自分の役割として強く意識しています。

これまで私は、出向元において、財務情報を用いて銀行の収益性や健全性を評価する業務に携わってきました。また、住宅ローンや要求払預金に内在する金利リスクや期限前償還リスクに関して知見を得る機会にも恵まれました。これに加え、ASBJ に着任してからの半年の間には、会計基準の憲法ともいえるべき「概念フレームワーク」について、日本基準および国際財務報告基準（IFRS）を比較しながら勉強するという素晴らしい機会も与えられました。

こうした経験を踏まえると、マクロヘッジ会計は、自分に最も合っているプロジェクトだと確信

しています。こうした機会を与えて下さった ASBJ および IASB 関係各位には、深く感謝しております。マクロヘッジ会計は、会計理論および会計実務の両面において、非常に難しい論点を多々含んでいるテーマではありますが、誠心誠意取り組んでまいり所存ですので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。